

第51回 2019（令和元）年
社会保険労務士試験

T A C 社会保険労務士講座

本試験分析

この資料は、第51回本試験実施後、受験者の皆様から寄せられた復元解答を元に、選択式及び択一式試験の平均点、得点分布等を算出し、分析結果を記載したものです。

本試験問題の「解答・解説」「科目別のコメント」「択一式問題の難易度一覧表」等につきましては本試験終了後に実施した解答解説会時配布資料に掲載しております。

なお、この資料の分析結果は、あくまでも復元解答を元に作成した現時点でのT A Cの見解であり、第51回本試験の結果を保証するものではありません。

途中の分析過程を省き、総合ラインのみ確認したい方は、P.7へ

※2019（令和元）年「社会保険労務士データリサーチ」を利用された皆様へ
画面上に表示されている点数・利用者数等と、当資料で用いている点数・利用者数等は異なっています。これは、「A, A, A, A…」 「1, 1, 1, 1…」といった本試験において実際に解答されているものとは異なると予想されるものや免除科目のある方等をデータ上から除き再集計しているためです。あらかじめご了承ください。

第51回社会保険労務士試験 分析資料

選択式試験

●TACデータリサーチより

年	基安	労災	雇用	労一	社一	健保	厚年	国年	計	合格点	合格率
2019(R元)	4.3	4.6	4.5	3.1	2.3	3.9	4.2	4.3	31.3	?	?
2018(H30)	3.3	4.0	4.4	3.0	3.0	4.0	3.4	2.8	27.9	23	6.3
2017(H29)	4.3	4.4	3.7	2.9	3.5	2.7	3.9	3.7	29.0	24	6.8
2016(H28)	4.2	4.3	2.8	2.1	3.5	3.3	3.2	3.9	27.3	23	4.4
2015(H27)	3.9	2.6	3.8	1.9	3.2	2.8	3.1	3.2	24.5	21	2.6
2014(H26)	4.1	4.2	4.3	3.0	4.0	3.6	4.1	4.8	32.2	26	9.3
2013(H25)	3.9	1.9	3.6	3.3	1.9	2.1	3.8	4.4	24.9	21	5.4
2012(H24)	4.0	4.8	3.8	4.1	2.7	3.6	2.9	4.3	30.2	26	7.0
2011(H23)	3.4	2.4	4.3	2.8	2.6	4.2	3.7	3.5	26.9	23	7.2
2010(H22)	3.7	4.0	4.5	3.6	3.0	3.5	2.8	2.3	27.3	23	8.6

※白抜き数字は2点（2010年の国年、2013年の社一は1点）が認められた科目

■□■今年度の選択式試験の特徴及び従来との比較■□■

- ◇平均点は31.3点と昨年を3.4点上回っており、合格基準点が26点とされた2012年及び2014年以来の30点台となっている。
- ◇8科目中、社一・健保を除く6科目が昨年の平均点を上回っており、全体的にみて、昨年よりは得点し易い内容となっていた。
- ◇最も点数が伸びていなかった科目は「社一」で、平均点は2.3点となっている。

●点数の分布割合等

(単位：%)

割合	基安	労災	雇用	労一	社一	健保	厚年	国年
0点	0.1	0.0	0.0	0.4	2.5	0.7	0.8	0.3
1点	0.7	0.1	0.6	5.3	13.4	2.2	2.2	0.8
2点	2.8	0.9	2.5	20.3	39.9	6.1	4.4	2.5
3点	12.6	5.8	8.0	40.6	38.9	19.6	10.8	10.4
4点	36.9	23.0	22.0	27.0	4.3	36.5	27.8	37.1
5点	46.9	70.2	67.0	6.3	1.0	34.9	54.1	48.9
3点以上割合	96.4	99.0	96.9	73.9	44.2	91.0	92.7	96.4
2点以上割合	99.2	99.9	99.4	94.2	84.2	97.1	97.1	99.0

択一式試験

●TACデータリサーチより

年	基安	災徴	雇徴	常識	健保	厚年	国年	計	合格点	合格率
2019(R元)	6.0	6.5	6.2	5.5	5.5	6.9	6.0	42.5	?	?
2018(H30)	6.7	7.0	6.4	5.2	6.9	6.3	5.9	44.4	45	6.3
2017(H29)	6.3	6.0	6.4	5.6	6.8	6.1	7.1	44.3	45	6.8
2016(H28)	5.7	6.0	6.2	5.4	5.6	5.8	4.8	39.4	42	4.4
2015(H27)	6.4	6.1	5.6	5.4	5.2	6.5	6.1	41.4	45	2.6
2014(H26)	6.6	6.5	6.2	4.9	7.0	6.9	6.2	44.3	45	9.3
2013(H25)	7.1	6.6	6.4	6.3	5.9	6.3	5.8	44.4	46	5.4
2012(H24)	6.6	7.1	5.5	5.6	7.8	6.9	6.1	45.5	46	7.0
2011(H23)	6.9	7.4	6.4	5.5	7.2	5.9	5.6	44.8	46	7.2
2010(H22)	7.6	7.0	7.6	5.3	6.6	6.1	6.6	46.7	48	8.6

※白抜き数字は、3点可とされた科目

※2010年 社一問7、健保問2、国年問10は正答なし。全員加点。厚年問10A B、国年問7 C Eは複数正答。

※2011年 災徴問8 C Eは複数正答。

※2015年 雇用問6は正答なし。全員加点。

■□■今年度の択一式試験の特徴及び従来との比較■□■

- ◇平均点は42.5点と昨年よりも1.9点低下している。
- ◇昨年7問と出題の比較的多かった個数問題は一昨年並みの3問、組合せ問題は例年並みの8問の出題であった。
- ◇最も平均点の高い科目は、[厚年]の6.9点で、平均点が7点以上の科目がないのは2016年以来である。一方、最も平均点が低いものは[常識]と[健保]の5.5点となっている。

●点数の分布割合等

(単位：%)

割合	基安	災徴	雇徴	常識	健保	厚年	国年
0点	0.0	0.0	0.3	0.1	0.3	0.0	0.2
1点	0.3	0.1	1.1	0.8	1.3	0.3	1.2
2点	1.5	1.0	1.9	3.2	3.4	1.5	3.4
3点	3.4	2.5	3.8	8.1	8.8	3.1	6.6
4点	10.2	6.6	8.3	15.0	14.1	5.9	10.2
5点	21.2	14.6	14.3	21.8	19.0	9.5	15.0
6点	25.3	22.9	22.7	22.3	22.0	16.6	21.1
7点	22.9	26.2	25.7	17.9	17.0	22.5	20.6
8点	11.4	17.6	15.5	8.5	10.4	23.3	14.3
9点	3.4	7.4	5.5	2.0	2.9	13.4	6.8
10点	0.4	1.3	1.1	0.3	0.8	3.8	0.5
4点以上割合	94.7	96.4	92.9	87.7	86.3	95.1	88.7
3点以上割合	98.2	98.9	96.7	95.9	95.0	98.2	95.2

【総合得点の検証】

●選択式の総合得点

厚生労働省が公表している、「社会保険労務士試験の合格基準の考え方について」(以下、「合格基準の考え方」という。)をみると、合格基準点は、満点の7割である「28点」を基本とし、全体の平均点を考慮した上で、前年の合格基準点を調整することとされている。

詳細なデータは後述するが、データリサーチの集計結果の平均点と過去の本試験の実際の平均点を比較すると、年によってある程度の誤差はあるが、本試験の結果に対してデータリサーチの集計結果は約7点程度高く出る傾向にある。これは、データリサーチの利用者が比較的得点の高い受験生に偏っている傾向にあるためと考えられる。しかし、実際の本試験の平均点が大きく上下した場合には、データリサーチの平均点も同様の傾向を示しており、両者の動きにはある程度の共通性があると推測することができる。本年度も同様であれば、昨年よりも合格基準点が引き上げられる可能性が高い。

●択一式の総合得点

選択式同様、「合格基準の考え方」をみると満点の7割である「49点」を基本とし、全体の平均点を考慮した上で、前年の合格基準点を調整することとされている。

択一式の平均総合得点（42.5点）は、45点が合格基準点であった昨年のデータリサーチ結果と比較すると、-1.9点と約2点の低下になっている。

こちらにも詳細なデータは後述するが、データリサーチの集計結果の平均点と過去の本試験の実際の平均点を比較すると、本試験の結果に対してデータリサーチの集計結果は約12点程度高く出る傾向にある。選択式同様、データリサーチの利用者が比較的得点の高い受験生に偏っているためと考えられるが、やはり、実際の本試験の平均点が上下した場合には、データリサーチの平均点も同様の動きをする傾向にあり、両者の動きには、選択式同様ある程度の共通点が見られる。前述の通り、データリサーチの択一式総合得点の平均点は42.5点と昨年と比較し、低下しているため、昨年の合格基準点よりも低い基準点となる可能性が高い。

【合格基準補正（いわゆる救済）の可能性について】

●選択式の合格基準補正の可能性

前述の、「合格基準の考え方」で「科目最低点の補正」の考え方を見てみると、補正（いわゆる救済）については、以下のように記されている。

各科目の合格基準点（選択式3点、択一式4点）以上の受験者の占める割合が5割に満たない場合は、合格基準点を引き下げ補正する。

ただし、次の場合は、試験の水準維持を考慮し、原則として引き下げを行わないこととする。

- i) 引き下げ補正した合格基準点以上の受験者の占める割合が7割以上の場合
- ii) 引き下げ補正した合格基準点が、選択式で0点、択一式で2点以下となる場合

今年の選択式試験では、全科目のうちで平均点が3点未満の科目は[社一]2.3点の1科目である。同科目の3点以上割合を見てみると、44.2%であり、上記の補正が行われる要件である「各科目の合格基準点以上の受験者に占める割合が5割に満たない場合」を満たしている。しかし、2点以上割合が84.2%であるため、2点補正を行うと、「引き下げ補正した合格基準点以上の受験者の占める割合が7割以上の場合、原則として引き下げ補正は行わない。」という要件に該当しているため、補正は行われない可能性が高い。

しかし、前述の通り、データリサーチの利用者が比較的得点の高い受験生に偏っている傾向にあることを考慮すると、同科目の2点以上割合は受験生全体でみるとデータリサーチの数値よりも下がる可能性があり、データリサーチ利用者以外の得点が、0点又は1点に集中すれば、補正が行われる可能性は残されている。

一方、次いで平均点の低い[労一]であるが、同科目のデータリサーチ上の平均点は3.1点、3点以上割合も73.9%であり、単純にみると、上記の補正が行われる要件を満たしていない。

ただし、前述の通り、データリサーチの利用者が比較的得点の高い受験生に偏っている傾向にあることを考慮すると、同科目の3点以上割合は受験生全体でみるとデータリサーチの数値よりも下がる可能性があり、2点補正の可能性は残されていると思われる。

受験生全体の得点の分布状況によっては、他の科目が補正対象となる可能性もないとは言えないが、データリサーチの数値から見る限り、補正が行われる可能性があるのは、[社一][労一]の2科目である。しかし、両科目ともに、データリサーチ利用者以外の得点状況によっては、補正が行われない可能性がある。

●択一式の合格基準補正の可能性

今年の択一式試験のデータリサーチの平均点は、昨年よりも低いレベルになっているが、その一方で、極端に平均点が低い科目もない。いずれの科目についても、補正が行われる可能性は低いと思われる。しかし、過去のデータリサーチの集計結果と本試験の結果を見ると、一昨年の[厚年]のように、データリサーチの平均点が決して低いわけではないが、補正が行われた科目も存在している。受験生全体のデータを見てみないとはっきりしたことはわからないが、現時点で補正が行われる可能性は低いといえよう。

総合的な合格基準分析

【参考1】過去の本試験結果とデータリサーチの結果

	選択式				択一式			
	リサーチ平均(a)	本試験平均(b)	合格基準点	(a)-(b)	リサーチ平均(a)	本試験平均(b)	合格基準点	(a)-(b)
2010(H22)	27.3	20.1	23	7.2	46.7	34.8	48	11.9
2011(H23)	26.9	20.5	23	6.4	44.8	32.8	46	12.0
2012(H24)	30.2	23.4	26	6.8	45.5	33.0	46	12.5
2013(H25)	24.9	18.5	21	6.4	44.4	33.0	46	11.4
2014(H26)	32.2	23.1	26	9.1	44.3	31.6	45	12.7
2015(H27)	24.6	18.6	21	6.0	41.4	31.3	45	10.1
2016(H28)	27.3	20.5	23	6.8	39.4	28.8	42	10.6
2017(H29)	29.0	21.3	24	7.7	44.3	31.9	45	12.4
2018(H30)	27.9	20.5	23	7.4	44.4	32.1	45	12.3

【参考2】データリサーチ結果に基づく合格基準点の予想

	選択式				択一式			
	リサーチ平均	予想本試験平均点	予想合格基準点	過去*の(a)-(b)の平均	リサーチ平均	予想本試験平均点	予想合格基準点	過去*の(a)-(b)の平均
2019(R元)	31.3	24.1	27	7.2	42.5	30.2	43	12.3

※TACデータリサーチにおいて分析可能な2007(H19)年から2017(H29)年の平均

- ここまで述べてきた通りデータリサーチの平均点は、本試験全体の平均点よりも高い数値となる傾向があるが、上がり下がりについては、全体の平均点と同様の動きとなる傾向がみられる。このことから考えると、データリサーチの結果から、本試験全体の平均点を推測し、本年度の合格基準点を予想していくことがおそらく最も現実的であろう。
- まず、選択式であるが、データリサーチの平均点は、31.3点であり、前年のデータリサーチ平均点27.9点に対し、+3.4点となっている。本試験全体の昨年の平均点は20.5点、過去のデータリサーチ平均点と本試験平均点の乖離の平均値は7.2点となっており、本年の本試験平均点は、ある程度の誤差があることは否めないが、24.1点と予想できる。対前年で考えると、+3.6点となり、これを公表されている「合格基準の考え方」にある、「総得点について、前年度の平均点との差を小数第1位まで算出し、それを四捨五入し換算した点数に応じて前年度の合格基準点を上げ下げする（例えば、差が-1.4点なら1点下げ、+1.6点なら2点上げる。）」という考え方にあてはめると、本年度の合格基準は、27点が有力となる。また、補正についてはP.5で述べたように、データリサーチの数値からみる限り、候補としては、[社一][労一]の2科目があげられるが、状況によっては、どちらか一方、又

は両科目ともに行われたい可能性も残されている。

- 3.** 次に、択一式も選択式と同様に考えていってみよう。本年のデータリサーチの平均点は42.5点で、前年の44.4点と比較して-1.9点となっている。本試験全体の昨年の平均点は32.1点、過去のデータリサーチ平均点と本試験平均点の乖離の平均値は12.3点である。以上の内容から、本試験の平均点は30.2点と予想でき、前年の平均点から-1.9点となる。「合格基準の考え方」では、「前年度の平均点との差を小数点第1位まで算出し、それを四捨五入し換算した点数に応じて前年度の合格基準点を上げ下げする。」としているため、昨年の本試験の合格基準点より2点低い43点が有力となる。ただし、厚生労働省の公表している合格基準の考え方において、「総得点の補正により、合格基準点を上下させた際、四捨五入によって切り捨て又は繰り入れされた小数点第1位以下の端数については、平成13年度以降、累計し、±1点以上となった場合は、合格基準点に反映させる。」旨の記載があることを考慮すると、択一式のボーダーラインは、上記予想より1点高い44点となる可能性がある。

択一式の補正の可能性であるが、本試験とデータリサーチとの乖離により、全く可能性がないとは言えないが、前述の通り、補正が行われる可能性は低いと思われる。

- 4.** 本年度の本試験の特徴として、難易度は、選択式は昨年よりも取り組みやすい問題が多く、比較的得点しやすかった印象である。選択式については、数年前までのような極端な難問の出題は見られず、ここ数年、レベルが安定してきた感がある。その一方で、択一式については、ここ数年では、比較的難易度の高い内容となっており、高得点を取ることが難しい科目が多かった。合格基準の設定や選択式の補正については、P.4から触れた通りだが、補正については「本来の基準点を下回る人の割合が高い」場合に行われることが分かっているが、全体の得点分布によっては補正が見送られたり、データリサーチの内容からは予想することが困難な科目が対象となることもあり、完全な予測をすることは困難である。また、択一式の合格基準も本試験での実際の得点分布や平均点を完全に把握することは困難であり、絶対と言うことはできないが、データリサーチの結果から考えた場合、現状では前記**2****3**で述べた合格ラインが有力であると考えられる。